

一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 平成25年度第2回社員総会 議事録

作成日：2013年11月29日

作成：事務局

【席 順】

	鈴木	太田	和田
石垣			中野
苛原			永井
外山			小倉
吉田			市原
ニノ坂			大澤
小笠原			英
	伊藤	長尾	前川
	岡田	平原	

日 時	2013年11月22日（金）19:00～21:00		
場 所	ステーションコンファレンス東京 602A		
出席者	石垣 泰則	静岡	城西神経内科/コーラルクリニック
	鈴木 央	東京	鈴木内科医院
	苛原 実	千葉	いらはら診療所
	和田 忠志	千葉	いらはら診療所
	太田 秀樹	栃木	おやま城北クリニック
	中野 一司	鹿児島	ナカノ在宅医療クリニック
	伊藤 光保	愛知	内科伊藤医院
	岡田 孝弘	神奈川	オカダ外科医院
	永井 康徳	愛媛	たんぼぼクリニック
	ニノ坂 保喜	福岡	にのさかクリニック
	英 裕雄	東京	新宿ヒロクリニック
	平原 佐斗司	東京	梶原診療所
	市原 利晃	秋田	秋田往診クリニック
	大澤 誠	群馬	大井戸診療所
	小笠原 文雄	岐阜	小笠原内科
	外山 博一	宮崎	外山内科神経内科医院
	吉田 大介	徳島	徳島往診クリニック
	長尾 和宏	兵庫	長尾クリニック
	前川 裕	富山	前川クリニック
	小倉 和也	青森	はちのへファミリークリニック
陪席	大島 浩子		国立長寿医療研究センター

<p>議題等</p>	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>新田会長挨拶 新世話人紹介 世話人 近況・活動報告 事務局 教育・研修局 IT・コミュニケーション局 調査・研究局 在宅医療助成勇美記念財団助成 ブロック在宅医療推進フォーラム</p> <p>3 議事</p> <p>第1回 全国大会（2014年3月22日～23日）について 世話人の所属変更後の扱いについて ホームページについて 本会の運営方針 方法 会員拡大 ご要望 外部評価委員について 次回開催日程（案）平成26年3月1日（土）浜松市*日本在宅医学会大会 初日 その他</p>
<p>議事等</p>	<p>(1) 開会</p> <p>太田：平成25年第2回全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人会議を始めさせて頂く。新田会長は、別件があり、遅れてのご参加となる。 今年度は、国を挙げて在宅医療という方向に舵が切られている。国立長寿医療研究センターを中心とした在宅医療推進の動きが非常に活発化している。在宅医療連携拠点事業も3期目を迎え、各地域で温度差はあるものの行政も本気で取り組む姿勢が見られる。日本医師会では、かかりつけ医の機能の一つに在宅医療を明確に位置づけ、在宅医の研修を行い本格的に活動を開始している。厚生労働省も在宅医療をバックアップしていくような制度面での配慮もされているが、残念なことに我々の活動からは想像もつかないような悪い在宅医の存在もある。厚労省からも、当連絡会が諮問的な役割を頂いて、制度にもわれわれの意見が反映されるような力強さを備えてきた。</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>○世話人近況報告</p> <p>太田：本日は新世話人も参加している。第1回全国大会の議論も控えているため、古参世話人は、太田から紹介させていただく。中野先生・永井先生。小倉先生は青森からで初参加ですので、ご挨拶を。</p> <p>小倉：青森県八戸市はちのへファミリークリニックの小倉です。北海道家庭医療学センターで家庭医療を学ぶ。3年半前に地元に戻り開業した。現在は、内科・小児科等の外来と60名ほどの在宅患者を診ている。青森県ではまだまだ在宅医療が発展途上であり、青森の在宅医療を少しずつ盛り上げていきたいと思っている。</p> <p>市原：秋田市で開業して7年。秋田県は、比較的医師会の協力を得やすい、昨年より当会の世話人となりPRしているが結果が伴っていない。努力を続けていきます。</p> <p>大澤：群馬県伊勢崎市で開業している。12月22日に地域包括ケアを学ぶ集い兼在宅医療リーダー研修を、伊勢崎市・伊勢崎佐波医師会・群馬県在宅療養支援診療所連絡会の共催で行う。</p> <p>英：東京都在宅医療推進フォーラムは、来年2月9日の予定。</p> <p>平原：北区で在宅医療をしている。北区の取り組みについては明日のフォーラム2部で紹介される。</p> <p>前川：初めての参加、よろしくお願ひします。富山県では、在宅療養支援診療所の県支部を立ち上げるには至っていない。昨年、広く参加してもらえよう在宅医会として結成した。来年は、東海北陸ブロック在宅医療推進県民フォーラムを富山県において開催する。明後日、富山県在宅医療</p>

推進県民フォーラムをKNB（北日本放送）とタイアップして開催する。

小笠原：在宅医療連携拠点事業での実績を元に岐阜県全体で展開していくような事業を行っている。
ニノ坂：なかなか参加できず、申し訳なく思っている。このさかクリニックで出している広報誌とパングラディッシュでの活動についてのチラシを持参した。

吉田：今年もとくしま在宅医療推進フォーラムを開催し、多くの参加者があった。

外山：今年は、宮崎県で九州ブロック在宅医療推進フォーラムを開催した。宮崎キュアネットワークを中心に活動を進めている。

石垣：東海地区の在宅療養支援診療所の活動は、岐阜の小笠原先生に支えられている。在宅医学会においては、在宅専門医の課題がクローズアップされている。全支連の先生方にもご協力をお願いしたい。

鈴木：大田区の在宅医療担当者と会ってきた。地域医療再生基金の交付金が東京都から市区町村に配分され、在宅医療推進事業が計画されている。11月28日が締め切りであったため急ぎで企画案を提出したが、大田区担当者より今は出来ないということで企画がなくなってしまった。市区町村の行政関係者への指導の必要性を感じている。

太田：この会が発足して6年経つが、世の中の意識改革が進んだことを肌で感じる。この、意識改革が行動変容に繋がっていない。医師会・行政・学術団体が在宅医療をテーマに掲げるようになった。

和田：現在、千葉のいらはら診療所で在宅医療を行っている。来月から週1回国立長寿医療研究センターに勤務する。

苛原：NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの全国の集いについて、今年は新潟で開催したが、来年は岡山、再来年は北海道で計画している。

長尾：兵庫県尼崎市でミックス型診療所を行っている。在宅医療を初めて20年になる。

伊藤：国立長寿医療研究センターの近くで在宅医療を行っている。非常勤医師が退職し忙しくなってしまった為、遅刻してしまった。愛知県において、声を掛けてはいるが会員が増えない。拠点事業の募集があったが、愛知県では在宅療養支援診療所には拠点事業は委託しないという方針。あいちの地域包括ケアを考える懇談会へ参加したが、在宅療養紫煙診療所・在宅みとりという言葉が出てこない状況。

岡田：神奈川県在宅療養支援診療所連絡会の設立に至った。会長に県医師会の常任理事に就いていただいた。

○事務局

太田：会員は微増。会費徴収については、今年中に請求書を発送。

○教育・研修局

和田：資料に準じて報告する。

- ・在宅医療推進フォーラム地方版の運営に関しては、世話人の皆様のご協力で運営できている。明日のフォーラムで報告。今後の開催に関しても、世話人を中心にご相談させていただく。
- ・日本医師会研修会のテキスト「かかりつけ医の在宅医療」の教育用DVDを作成した。明日のフォーラムでも上映予定。
- ・国立長寿医療研究センターの厚労省老人保健健康増進事業「在宅療養者の摂食状況・栄養状態の把握に関する調査研究」に協力している。
- ・国立長寿医療研究センターの厚生科学研究「高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する教育システムの構築に関する研究」において、昨年度は在宅診療への調査に協力を頂いたが、今年度は病院への調査を行っている。
- ・国立長寿医療研究センター「被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究」において、在宅医療に関する教育評価を行う。昨年作成したDVDについてのアンケート調査を行う。また、全国の在宅療養支援診療所を対象に別紙④のようなアンケートを行うことから、当会でも暫定倫理委員会を構成し検討していく。

○ITコミュニケーション局

中野：IT・コミュニケーション局をICT局に変更してはどうか。
 太田：異議なし ⇒承認
 中野：HP会社移行でHPの大幅なリニューアル中。お金もかかる事から、会員拡大と大会の成功に努めたい。
 ○在宅医療助成勇美記念財団助成ブロック在宅医療推進フォーラムについて
 太田：明日のフォーラムの午前中に報告予定。今後ご協力をお願いしたい。
 (3) 議事
 ○第1回 全国大会(2014年3月22日～23日)について
 太田：全国大会を開催するまでに成長し、中野先生と永井先生のご尽力の元で計画が進められている。
 永井：26年3月22日23日、ステーションコンファレンス東京において全国大会を行う。メインホール400名、サブホール300名の定員。大会ホームページはアップさせていて、参加申し込みは本日開始。350名でも収支が取れるようにしている。当会から150万、勇美から100万円の助成を受けても厳しい。講師も世話人・会員には謝礼なし。企業協賛での収入が不可欠であると考えている。
 太田：企業協賛については、承認が必要。
 永井：抄録広告・ブース展示・ランチョンの弁当・世話人広告を想定した。
 鈴木：プライマリケア学会からの160万については黒字が出れば回収し、赤字になれば、なんとかする。
 永井：160万も計上する。
 石垣：協賛がなくては全く不可能だろうか。抄録は参加者各自でダウンロードしてもらおうとか、ランチは各自準備するとか。
 中野：現在はHPがしっかりとしていないし、会費の蓄積もなく認知度が低いことから難しい。
 永井：ゼロから黒字を目指すのは難しく苦渋の選択ではあるが、企業からの支援を得たい。参加者がどのくらい集まるかも分からない。将来的には可能になることを目指している。
 鈴木：集客を考えると、抄録・弁当等を準備し、丁寧な開催にしたほうが良いと思う。
 中野：HPが充実しシステムも動き出せば、協賛なしの開催も可能になると思う。
 ニノ坂：企業も在宅医療を展開する仲間としての参加の仕方を求める。むやみに企業に頼るのは反対だが、企業側の姿勢も確認したほうが良い。
 太田：企業の選択が重要。世話人から、この企業は困る等の意見があるようなところは止めたほうが良い。
 永井：世話人会MLで図ることでどうか。
 永井：ランチョンセミナーの弁当については。
 太田：テーマによって、その企業の利益に関係のない企業が望ましい。
 鈴木：自社の利益に繋がらない内容では、協賛してくれる企業を探すのは困難かも。
 太田：世話人会MLで企業名と協賛の仕方を配信し、世話人から意見を頂くこととする。 ⇒承認
 永井：協賛を期待できる企業とのパイプをお持ちの先生は、企業名・担当者を知らせてほしい。
 太田：世話人会MLにて、企業名を挙げていただきたい。意義のある世話人はそでご意見を。
 永井：参加費について、事前申し込みは1万円、当日受付は1万1千円、入会キャンペーンで入会金が通常5千円を大会開催までの間3千円とすることでよいか。キャンペーンという軽い感じであってよいか。大会名を「全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会」とすることでよいか。
 太田：参加費1万円、当日参加は1万1千円。キャンペーンと称する事。 ⇒承認
 赤字が出た際の補填について、新田会長も腹をくくっていてなんとかするという事。
 大会名について「全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会」 ⇒承認
 永井：懇親会について、東京駅周辺で探したが、費用は高くなってしまうが、便の良さ等から考え同じ会場で行うことでよいか。8000円、300名の参加の設定でよいか。
 太田：懇親会の参加人数について、8000円で300名集めるのは困難では。

永井：申し込み状況に応じて変更は可能。

太田：懇親会会場、参加費について、大会と同会場、参加費 8000 円。 ⇒承認

永井：講師謝礼等について、世話人・会員演者へは謝礼・交通費なしで、会員以外の講師について、現時点では 10 名程度、宿泊費については 5 名ほどで計上しているが。

太田：講師の皆様については、謝礼の額等は言わずに了承を得ているので、3 万～5 万の範囲で紹介者の顔がたつよう個別に設定する。交通費は実費とする。 ⇒承認

永井：チラシは明日のフォーラムで配布。会員へは会費請求書に同封。メーリングリストで告知。世話人の皆様にチラシを配布してほしい。

鈴木：医師会の中の在宅医会に配布したい。

永井：チラシを PDF で世話人会 ML に配信し、必要分は印刷できるようにする。

永井：大会のホームページはアップ済で、本日申し込み開始。同時に会員の登録システムについても、新ホームページにて構築予定。会員管理や会費管理も併せてできるようになる。今後の会員増加に向け、事務作業の効率化や管理費軽減化が図れる。詳しくは資料をご確認いただきたい。

太田：新ホームページの ID・パスワードは世話人会 ML で知らせてあるので、皆様にも見ていただき、ML にてご意見・コメントを頂きたい。

永井：当日スタッフについて、ゆうの森からも何人か連れてくるが、それだけでは不可能。最低 30 名は必要かと思われる。

太田：東京周辺の世話人で手配できるのでは。必要な人数を示して頂いて、有償ボランティアとしてご協力いただきたい。 ⇒承認

永井：日当 5000 円と弁当位でよいか。 ⇒承認

太田：懇親会のスタッフについても要検討。

永井：プログラムについて、2 日目午前中のメインホールシンポジウムのタイトル「今、なぜ在宅医療なのか？」でよいか。また、座長が未定だが、新田先生と太田先生でよいか。

太田：当大会について、日本医師会からも新聞等を通じて広報していただけることになっている。シンポジウムについては、横倉会長との時間調整がまだ出来ていない状況。大変良い関係が築けている。このシンポジウムについての責任者は太田。

鈴木：対象はかかりつけ医のため、シンプルで良いタイトル。

太田：大会実行委員に権限がある。実行委員で決められれば、我々は指示に従うこととする。 ⇒承認

永井：シンポジウムのタイトル「今、なぜ在宅医療なのか？」座長は新田先生と太田先生。 ⇒承認

永井：2 日目サブホールは「はじめての在宅医療セミナー」で医師会 DVD を上映する。座長は、和田先生と英先生。その他のセッション、ランチョンセミナーの責任者・座長を決めたい。

太田：1 日目 14：00～サブホールの責任者は石垣先生。2 日目ランチョンセミナー、サピアホールの座長は市原先生、サブホールの座長は吉田先生にお願いしたい。 ⇒承認

永井：2 日目 13：40～サブホールの座長は小倉先生。2 日目 14：50～サブホール座長は鈴木先生。 ⇒承認

太田：皆様のご協力をお願いしたい。今後、問題があれば ML にて課題提供を願いたい。

○世話人の所属変更後の扱いについて

太田：具体的に言うと、小野沢先生について、千葉県亀田クリニックにご所属の際に世話人をお願いしたが、現在は神奈川県北里大学病院に変更となった為どのように扱えばよいか。県が変わっても、ご本人の意思で世話人としてご協力頂ける意思があれば変更後の県に於いても世話人を継続していただく。

岩本：小野沢先生からは、在宅医療の現場からは少し離れてしまった為世話人として在籍してよいかとご連絡を頂いている。

太田：在宅医療の現場から離れたのという理由であればご辞退いただく。県が変わっても在宅医療を継続されていければ続けてご協力いただくこととする。 ⇒承認

○ホームページについて

永井：すでに協議済みのこと以外で、現「在宅医リスト」について、現在は本に掲載された診療所の

	<p>リストに掲載希望のあった会員の診療所が入っている。今後は、名前と所属の会員のリストにしたいが。</p> <p>中野：今後は、会員リストにしたほうが良い。会員MLで問い合わせ、掲載されたくない会員がいな いか確認する。</p> <p>太田：掲載について、会員に承認を得た上で掲載することとする。 ⇒承認</p> <p>永井：「つながろう」コンテンツを設け、世話人の活動報告や講演会、著書の案内等を掲載。更新さ れないと見てもらえないので、どんどん新情報を掲載したい。</p> <p>鈴木：例えば、毎月世話人のコラムの掲載もよいのでは。</p> <p>太田：患者の紹介依頼等は困るが、判断も永井先生にお任せして、まずは、やってみて継続審議とい う事にする。永井先生から各世話人等に原稿依頼等もお任せする。 ⇒承認</p> <p>○暫定倫理委員会の設置について</p> <p>和田：厚生労働省関係・国立長寿医療研究センター関係の種々の研究活動に参加するにあたり、当会 でも倫理的な判断を行う会議の設置が必要と考えた。「暫定倫理委員会」と称し、「倫理委員 会」設置準備を行うとともに、倫理委員会設置までの間に倫理的な審査が必要な案件について その審査を実施する。ここで承認が得られれば明日にでも会議の開催を行いたい。</p> <p>太田：今回のメンバーについては、暫定的に作らなければならない状況となり、首都圏で集まりやす い先生をお願いした。今後の人選については協議を行う。 「暫定倫理委員会」を設置する。 ⇒承認</p> <p>○外部評価委員について</p> <p>太田：当会の設立当初より外部評価委員会があったが、事務局の責任で形骸化してしまっている。活 性化を図りたい。外部評価委員の活動については、世話人会においても報告していく。日本医 師会の三上先生より外部評価委員についてご辞退のお申し入れがあった為、見直しに至った。 外部評価委員の活性化と活動について世話人に報告していくこととする。 ⇒承認</p> <p>○次回開催日程について</p> <p>太田：次回開催日程は、平成26年3月1日（土）浜松市*日本在宅医学会大会 初日でよいか。 懇親会が19：00から、懇親会に食い込んでしまってもよいか。</p> <p>鈴木：太田先生と鈴木が19：00までのシンポジウムの座長、永井先生はシンポジストだが。</p> <p>太田：平成26年3月1日（土）18：30～20：30 会場については、石垣先生にお願いする。 ⇒承認</p> <p>○その他</p> <p>鈴木：日本プライマリケア連合学会が中心となり、看取りの研修をつくろうという動きがある。日本 緩和医療学会・日本老年医学会・日本プライマリケア連合学会・日本緩和医療薬学会・日本在 宅薬学会・日本在宅医学会・日本在宅医療学会・日本在宅ケア学会・日本在宅看護学会等8つ くらいの関連学会の協力の下で12月からの作成を目指している。皆にもご協力いただくこと がある。その際はどうぞよろしくお願したい。</p> <p>小笠原：岐阜県は人口約220万人。遠隔診療利用型在宅医療モデル事業に約1億2千万円の補助金があつ いた。多職種連携による在宅医療提供体制の整備に総事業費5～6億の予算をあてる。岐阜県 全域で看取りまで支えられるようなシステムの構築を目指している。</p> <p>(4) 閉会</p>
資料	<p>○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿・会員状況</p> <p>○教育・研修局より ○IT・コミュニケーション局より</p> <p>○全国在宅療養支援診療所連絡会第1回全国大会の準備・運営に際しご検討いただきたい点</p> <p>○全国在宅療養支援診療所連絡会 平成25年度第1回社員総会 議事録</p> <p>○第16回日本在宅医学会大会 浜松大会チラシ ○HP会員登録システム提案書</p> <p>○遠隔診療利用型在宅医療モデル事業「岐阜モデル」 ○地域包括ケアを学ぶ集い（伊勢崎地域）</p> <p>○医療法人にのさかクリニック広報誌 他</p>
事務局	岩本 佳代子